

助成事業の継続と新たな活動の可能性を

元受賞者および若手研究者による意見交換会 in博多



元受賞者および若手研究者による意見交換会が2019年3月15日、博多の学校法人呉学園日本デザイナー学院九州校で行われました。

今年は金萬有科学技術振興会として事業をスタートしたときから42年、また一般財団法人への移行と成和記念財団への名称変更から6年。

本財団のこれまでの事業を振り返り、その継続と今後の新たな活動の可能性について、国公立大学で後進の指導にあたる元受賞者と若手研究者の広い世代による意見交換を行うという趣旨で企画されました。

この場には初期の受賞者から現役世代まで、九州と近県で連絡可能な方々に呼び掛け、同じ時期に九州大学で開催された日本物理学会に出席した本財団元受賞者や財団の支援をうける若手勉強会参加者たちが集いました。

財団からは東京より金光宇理事長と曹基哲理事（お茶の水女子大学教授）、宋成烈評議員（学校法人呉学園日本デザイナー学院理事長）が同席。

司会者の李秀榮・理研神戸上級研究員が、出席した元受賞者の金大貴・大阪市立大学教授、金鋼・大阪大学准教授、李根浩・宮崎大学准教授、鄭容武・広島大学准教授、島田達生・大分医療技術専門学校校長、李相男名誉理事（福岡大学元講師）、さらに物理を専攻する現役大学院生た

ちを紹介。

またイベントの案内を受けたものの、都合により欠席となった財団関係者の方々より暖かいメッセージが届いていることも報告されました。

金光宇理事長が日々たゆみなく科学研究に打ち込んでいる元受賞者の皆さんに熱いエールを送り、本財団の助成事業の発展のため有意義な提案をしてほしいとあいさつ。

当財団の受賞者で選考委員、評議員、理事として長く関わって来た曹基哲教授から、当財団の歴史と現況についてスライドを用いての講演と問題提起がありました。

席上、本財団の各種奨励事業や奨励以外の財団事業に関するアンケート用紙が配布され、「問い」の部分参照しながら忌憚のない意見交換が行われました。

参加者たちは場所を八仙閣本店に移し懇親会。宋成烈評議員のご発声で乾杯のあと、和やかな雰囲気の中、出席者のリレートークが行われ、近況や当財団への意見、皆さんへの提案など発言が続きました。

